

【今日の説教から】

イエス様は聖霊についてこう語られました。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:26)

聖霊の働きにより、ペテロは堂々と説教をしました。聖霊が注がれた事を通してイエス様の語っておられたことが真実であったことを示し、聖霊が注がれることはヨエル書に書かれてある通りだと語りました。そのうえ、ダビデもまたイエス様のことをわが主と呼び、その復活をも預言していたとペテロは語ります。

詩編の中(16・110篇)でダビデが自らの苦しみとそこへの助けを歌っていたと思われる事が、イエス様の身に起こる苦しみと、復活の預言であるという事を読み解く出来事には、聞く人たちを大変驚かせ、ダビデが主と呼んだそのお方をあなた方は十字架にかけて殺したのですという彼の言葉は、人々の心に深く刺さりました。聖霊の洞察力をもって私たちも聖書を読み、理解し、主が語られたことを思い起こし、今週も良き業に励みたいと願います。

「わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。…わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。…あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」

(ヨハネ 14章)

皆様おはようございます。

梅雨が始まったばかりの6月中旬にもかかわらず、梅雨明けの真夏日のような日々でしたが、皆様お元気にお過ごしでしたでしょうか。今週はまた梅雨が戻って来るようです。どうぞ引き続きご自愛ください。

さて、ペンテコステの日に語られたペテロの説教を読み進めてまいりましょう。

先週の箇所では、ペテロがヨエル書を引用して聖霊の注がれることはかつてからすでに預言されていたことであり、それがこの日に実現したのだと力強く語りました。それはイエス様もかつて語っておられた通りの出来事であり、「ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡としとにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせた」と語りました。主のよみがえりに続く聖霊の出来事は、イエス様の力ある奇跡の業と共に神様から遣わされた正しい方である証明であるとペテロは力強く語りました。

そして今日の箇所でペテロは、イスラエルの人すべてが尊敬する王ダビデを引いてイエス様の証しをしました。

2:25 ダビデはイエスについてこう言っている、／『わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされないため、／わたしの右にいて下さるからである。

2:26 それゆえ、わたしの心は楽しみ、／わたしの舌はよろこび歌った。わたしの肉体もまた、望みに生きるであろう。

『わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされないため、／わたしの右にいて下さるからである。それゆえ、わたしの心は楽しみ、／わたしの舌はよろこび歌った。わたしの肉体もまた、望みに生きるであろう。

これは詩篇 16 篇の引用ですが、これは一見すればダビデの叫びと信頼と慰めを現す詩であろうと思われます。その理解も的外れとは言えないとは思いますが、ペテロはここから切り込んで話します。

2:27 あなたは、わたしの魂を黄泉に捨ておくことをせず、／あなたの聖者が朽ち果てるのを、お許しにならない／であろう。

2:28 あなたは、いのちの道をわたしに示し、／み前にあって、わたしを喜びで満たして下さるであ／ろう』。

これがもしダビデのことだとしたら、どうでしょうか。ダビデといえどもその生涯を全うして墓に入ったのではないでしょうか。そして彼の体は朽ち果ててしまったのではないでしょうか。ペテロはそのことを 29 章で言っています。

2:29 兄弟たちよ、族長ダビデについては、わたしはあなたがたにむかって大胆に言うことができる。彼は死んで葬られ、現にその墓が今日に至るまで、わたしたちの間に残っている。

2:25 ダビデはイエスについてこう言っている、／『わたしは常に目の前に主を見た。

こう 25 節にありますが、「わたしは常に目の前に主を見た」という言葉は、彼がいつも主を意識して、主から学び、主により頼んで生きていこうとしていたという事を現すのかと思いますが、この言葉は原語ヘブライ語では、「私は常にわが前に主を、時の先に見続けてい

る」という意味があります。目の前にという事は、時の先にという意味なのです。

2:30 彼は預言者であって、『その子孫のひとりを王位につかせよう』と、神が堅く彼に誓われたことを認めていたので、

2:31 キリストの復活をあらかじめ知って、『彼は黄泉に捨ておかれることがなく、またその肉体が朽ち果てることもない』と語ったのである。

2:32 このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである。

2:33 それで、イエスは神の右に上げられ、父から約束の聖霊を受けて、それをわたしたちに注がれたのである。このことは、あなたがたが現に見聞きしているとおりである。

ダビデはその目を時の先に向けていました。彼は預言者であり、先に起こることを時の先に、「あらかじめ知って」(31節)いたのです。ダビデは人として生まれたイエス様よりも1000年も前の人でしたが、彼は時の先を読む能力が授けられていました。そして彼はイエス様の復活をあらかじめ知って、このようにイエス様について書いていたのです。

そして私たちが皆知るところの言葉にも行いにも力のあるイエス様が、予告しておられた通りに苦しみを受け殺され、復活し、昇天され、「神の右に上げられ、父から約束の聖霊を受けて、それをわたしたちに注がれたのである。このことは、あなたがたが現に見聞きしているとおりである。」とペテロは理路整然と語りました。

2:34 ダビデが天に上ったのではない。彼自身こう言っている、／『主はわが主に仰せになった、

2:35 あなたの敵をあなたの足台にするまでは、／わたしの右に座していなさい』。

ダビデは天には上りませんでした。今度は詩篇110篇の引用です。

『主はわが主に仰せになった、

2:35 あなたの敵をあなたの足台にするまでは、／わたしの右に座していなさい』。

主はわが主に仰せになった。ダビデは自分に対して言われたとは言っていません。主がわが主に言われたとあります。ダビデの主とは誰でしょうか。それが彼が時の先に見ていたメシア救い主キリストです。

この引用はイエス様ご自身もしておられ、福音書に書かれています。

マタイ 22:41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった、

22:42 「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。

22:43 イエスは言われた、「それではどうして、ダビデが御靈に感じてキリストを主と呼んでいるのか。

22:44 すなわち『主はわが主に仰せになった、あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、わたしの右に座していなさい』。

22:45 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるなら、キリストはどうしてダビデの子であろうか」。

22:46 イエスにひと言でも答えうる者は、なかつたし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなつた。

イエス様はダビデの家系の子ではあっても、ダビデ自身が主と呼んでおられるお方であることを主ご自身が証ししておられます。そのイエス様が、詩篇にも書かれているように、父なる神様から「あなたの敵をあなたの足台にするまでは、わたしの右に座していなさい」と言われ、今でも点で父なる神の右におられるお方なのです。

2:36 だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである」。

2:37 人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った。

2:38 すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。

使徒1章にて語られていますイエス様の言葉は、聖霊の満たしと共に弟子たちの身に実現しました。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

イエス様がどのようなお方であるのかを的確に証しすることこそが、人に罪の自覚をもたらします。人はイエス様に対して傲慢にふるまい、神を神としません。自分の考えを神としています。しかし神様はイエス様によってご自身を現してくださいました。すなわちそれはイエス様による十字架の贖いと赦しです。ここに現わされている神様の愛と熱情です。私たちのできることは、心からの悔い改めです。イエス様のご功績により、その御名によって洗礼を受け、洗われ、清められ、そして賜物としての聖霊をいただき、私たちの理解力はいよいよ完全なものとなります。

ヨハネ 14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言っておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御靈である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

14:19 もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである。

14:20 その日には、わたしはわたしの父におり、あなたがたはわたしにおり、また、わたしがあなたがたにおることが、わかるであろう。

14:21 わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」。

14:22 イスカリオテでない方のユダがイエスに言った、「主よ、あなたご自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか」。

14:23 イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。

14:24 わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわされた父の言葉である。

14:25 これらのこととは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、また

おじけるな。

聖霊により、力づけられ、慰められ、教えられ、強められ、理解し、願い、かなえられ、良き業を実行するものとされるというこの希望を胸に、今週も大胆に主の証し人として進みましょう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。聖霊を受ける時、私たちには教えがあり、理解があり、実行力が与えられますことをありがとうございます。そればかりではなく、私たちは一人ではないことを教えられ、平安が与えられ、恐れが取り除かれることがあります。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン